

話のポスト

◎：新型コロナウイルスの感染拡大の影響は日常生活のあらゆる場面に及んでいる。本来であれば晴れの舞台の卒業式。和歌山県教育委員会は政府要請の臨時休校措置のタイミングと重なったこともあり、県立高校の卒業式を中止とした。このため、新宮・新翔の両高校は急きょ予行演習の日に卒業証書を授与した。本市エリア内の小・中学校は時間短縮や規模縮小で挙行了た。

◎：子どもも状況を理解し、いつも以上に気持ちを込めて校歌を歌ったり、お世話になった教職員や保護者に感謝の言葉を伝えたり、明るい雰囲気づくりに努めていた。一方で、教職員らはできる限り思い出の残る卒業式にしようとして行錯誤。黒板へのメッセージや歌のプレゼントなど「サプライズ演出」が例年以上に見られたようで、テレビ

などでも報道されていた。

◎：新宮市立城南中学校では、卒業式前日の5日、臨時休校期間のため会場準備は教職員だけで行った。その際、3年生の担任から「3年間頑張った生徒たちに教職員として何かしてあげたい」として、歌のプレゼントを提案。中田善夫校長はじめ全会一致で賛同した。中田校長は「時間短縮が言われているが、私の式辞を短くしてでもぜひやろう」と声をかけた。

◎：卒業式当日、卒業生の最後の歌が終わり閉式になる直前、教頭から「サプライズの通知」があった。27人の教職員は伴奏に乗せて海援隊の「贈る言葉」を合唱。前日1回だけの練習だった

が、息ピッタリに歌い上げた。突然のプレゼントに涙する生徒も続出したほか、保護者も感銘を受けていた。中田校長は「生徒が喜んでくれたのが何より。時間との闘いの中だったが、やってよかった」と振り返った。(深瀬浩司)



卒業生に歌のプレゼントをする城南中の教職員(3月6日)